

なっ

7月号
vol. 197

特集
芸術

トビラ

vol.1

Breakthrough Journey Dance Camp

「くくもお腹もいっぱい」
ゆくとあいふれあい喫茶



いる。
今年2023年度は、日本とアジアの
振付家や障害のあるダンサーとの国際

日本とアジア、
多様な人と文化の共創
2023年8月26日(土)、27日(日)の
2日間にわたり、障害者の文化芸術創造
拠点形成プロジェクト『Breakthrough



vol.1 Breakthrough Journey Dance Camp

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で、社会の関心が高まった障害者の文化芸術。誰もが文化芸術に親しみ、楽しめる「トビラ」が開き始めています。20年以上にわたって障害者の文化芸術活動の普及、推進に取り組んできた国際障害者交流センター(以下、ビッグ・アイ)。その取り組みを3号にわたり紹介します。

Journey Dance Camp(ブレイクスルー・ジャーニーダンス・キャンプ)が、大阪府堺市にあるビッグ・アイで開催される。
ビッグ・アイでは、これまで培ってきた国内外のネットワークを活用し、舞台芸術を通じた国際交流に取り組んでいる。

交流、連携、協働をさらに進め、ビッグ・アイの国際的な文化芸術拠点・交流拠点機能の強化を目指している。その実現に向けて、日頃から障害のある人との創作活動や舞台芸術活動を実践する日本、シンガポール、香港、台湾のアジア4か国・地域のプロの振付家やダンサー、障害のあるダンサーなどが大阪に集結し、様々なジャンルのダンス・ワークショップを開催する。

このワークショップでは、舞台『花ト図』や、イマーシブシアター『Venus of TOKYO(ヴィーナス・オブ・トーキョー)』などの作品で知られ、ストリートダンスとコンテンポラリーダンスを融合した独創性に富んだ作品を生み出し続ける日本のダンス・カンパニーDAZZLE(ダズル)や、東京2020パラリンピック競技大会開会式に出演した森田かずよ(もりた・かずよ)と、「些細

た。2019年度からは、『障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト』として、障害者の舞台芸術活動への参加拡充、表現や発表の場の創造、人材の育成などを目的に、国内外の各地で舞台公演、上映会、シンポジウムやダンス・ワークショップなどの様々な企画を実施して



ダンス・カンパニー DAZZLE

なことをガムシヤラに……」を信条としコツコツと身体で時を紡いでいく田畑真希(たばた・まき)が講師を務める。
また、香港展能藝術協会(香港)や聴覚障害のあるダンサーで組織されたダンス・カンパニー林靖風聴障舞踊団(台湾)による

ワークシヨップも
楽しみだ。

どのワークシヨップも、アジアの
エネルギーなダンスが体感でき、
国籍、性別、障害の有無に関係なく誰も
が楽しめるプログラムとなっている。

そのほかにも、今回のワークシヨップ
では、講師や参加者のダンスサポートと
して、国内外の障害のあるダンサーが参
加する。今回の企画は、多様な背景を持
つ人々が創作活動の現場に集い、コミュ
ニケーションのあり方を体現し、感じ、



Lin Ching Lan/ リン・チン・ラン (台湾)

考える機会となる。障害のある人の文化
芸術活動を広げるだけでなく、舞台芸術
の新しい価値やあり方を導き出すこと
が期待できる企画なのだ。

DANCE DRAMA 『Breakthrough Journey』

今回のダンス・ワークシヨップに参加
する講師やダンサーは、いずれも
2021年と2022年にビッグ・アイ
と東京芸術劇場で上演された、舞台公演
DANCE DRAMA
『Breakthrough
Journey』(ダンス・ド
ラマ『ブレイクスルー・
ジャーニー』)にダンサ
ーや振付家として参加
した面々ばかりだ。

本作は、日本7地域、
アジア4か国・地域か
ら選ばれた振付家・プ
ロのダンサー・障害の

すること、鑑賞することで癒されること
を実感し、文化芸術活動の持つ多様な力
や意味を再び問い直す瞬間だった。

多様性こそが 私たちを進化させる

グローバル化の加速、東京2020オ
リンピック・パラリンピック競技大会を
契機として、多様性の尊重、持続可能な
共生社会の実現が重要な社会課題とさ
れている。「違うこと」「違い」はネガテ
ィブに捉えられがちであるが、多様な
人々がその「違い」を尊重し、関係性を
築くことによって社会は豊かになって
いくのだ。文化芸術は、それを具現化す
る力を持っている。2018年に「障害
者による文化芸術活動の推進に関する
法律」が公布・施行され、2023年に
は「障害者による文化芸術活動の推進
に関する基本的な計画(第2期)」が
スタートした。障害のある人を
はじめ、誰もが鑑賞、



DANCE DRAMA 『Breakthrough Journey』 東京公演 (2022年) 撮影：富田了平

創造、発表等の文化芸術活動に参加し、
等しく文化芸術を享受できる環境整備
と拡充がさらに推進されることが期待
される。

この8月のダンス・ワークシヨップで
は、物理的・心理的障壁を取り除き

あるダンサーなど、
キャスト・スタッフ総勢100

名を超えるメンバーが参加した大型

ダンス公演である。総合演出・長谷川
達也(DANZLE主宰)のもと、国内外の
振付家による、日本の魅力とアジア諸国
の特色を盛り込んだ振付・演出が見事な
作品だ。また、本作は、聴覚障害、ダウン
症、下肢欠損、高次脳機能障害、自閉症、
軟骨無形成症などの障害のあるダンサ
ーが多数出演しているほか、各地に拠点
を置き、創作を行うなど、制作者や障害
のあるアーティストなど舞台芸術の担
い手となる人材の育成も目的としてい
る。

さらに、多様な障害種別に対応した鑑
賞サポートも考えられている。2022
年10月の東京公演では、音声解説や音声
補聴ヒアリンググループ、手話通訳、音
訳プログラムなど誰もが公演を楽しめ
る環境を整え、当日は、障害の有無に関
係なく多くの人を迎えることができた。
コロナ禍により生まれた閉塞感。表現

(Breakthrough)、多様な人が集まる場
(Camp)、楽しむ場になってほしい。

文責：国際障害者交流センター
(ビッグ・アイ)

『Breakthrough Journey Dance Camp』

開催日 2023年8月26日(土)、27日(日)

会場 国際障害者交流センタービッグ・アイ

料金 無料・要事前申込
※申込締切：7月20日(木)
※情報サポート：手話通訳(日本語)、日英逐次通訳

問合せ先 TEL:072-290-0962(土日祝日を除く10時~17時)

プログラムの詳細は、チラシ又はHPを
ご確認ください。

<https://www.big-i.jp/>



にしなりもん

西成にもまだまだ発掘されていない文化資源・社会資源は存在するはず。これら西成産のモノやコトを「にしなりもん」と名づけ、その由来やエピソードを辿っていきます。

山芋のぬか漬けと まちの思い出 「ほろ酔い処 三丁目」

思い立って自分で美味しいご飯を作ろうとキッチンに立ち、レシピを見る。そこに書かれている「出汁を入れる」という言葉を見て、「出汁ってどうすればよいの？ 自宅に置いてないよ！」となり結局諦める。共感していただける読者も多いはず、「日ごろ料理をあまりしない人あるある」だ。

今回訪れたのはそんな「出汁」や「味つけ」にこだわったお食事がいただける「ほろ酔い処 三丁目」。住宅街の一角に灯された赤ちようちに吸い込まれるようにお店へ入る。店内はカウンター席とテーブル席が3つ。テーブルは横一列に並んでいるので大人数でもまとまって座れる。テーブルにはお好み焼き用の鉄板もある。

おかあさんはお店を一人で切り盛りしていて、メニューを見ていると、料理のこだわりが随所に感じられる。まずはビールを注文。おつまみには手羽の



唐揚げとスルメ天
ぶら、そして野菜炒
めをいただく。

「料理が来るまでの
間にどうぞ」と山芋の
つくだしが。何気なく
一口いただくとこれが

おいしい！おかあさんに聞くと山芋をぬか床に漬けたものとのこと、塩味がビールに合う。料理が揃って写真を撮るまでビールを我慢していたが、あっさりとした心変わりして一口、二口と飲みながら山芋をつまむ。「山芋、おいしいですね」と素直に喜ぶと、「他の味もあるよ」とわさび風味の山芋も出してくれた。おかわりを求めたようで恐縮である。

注文した料理が揃った。まずは手羽の唐揚げ。サクサクの食感に鶏の肉汁が口に幸せを運んでくる。もう一つは追加で注文した手羽煮込み。お肉がほろほろと取れてお箸もビールも止まらない。

酒と料理に夢中になっていたが、ふと壁に目をやると数十枚の写真が。お



客さんの楽しそうな集合写真の中に、小さな子どもがハロウィンの衣装を着ていたり、マイクを持って歌を歌っていたりする写真があつて、とても微笑ましい。おかあさんに聞くと、コロナ感染拡大前は近隣に住む子どものハロウィンイベントをしていたそうである。その時の写真を見ながらおかあさんの人柄が人集まるのだらうなと思った。コロナへの対応が変わりつつある今、

このような地域のイベントが復活することを切に願う。

野菜炒め、スルメ天ぶらを食べながらおかあさんと談笑した。お店の話だけでなく、おかあさんの昔話や地元の話など、知らないことをたくさん教えてもらう。楽しいお話とおいしい料理に囲まれてお酒が進む。こんなお店が家の近所があればいいなとしみじみ感じながら、ごちそうさま。おかあさんに見送られて帰路につく。土日はお昼からお好み焼きも出しているとのこと、お昼にもまた行ってみたいと思う。

この日は残念ながら売り切れだったが、「ほろ酔い処 三丁目」のメイン料理は「ちりと鍋」。沖縄味噌を使ったピリ辛、野菜たっぷりの一品だ。行かれた方はぜひご賞味あれ。

文責：笹川勝正・山村裕太

ほろ酔い処 三丁目

住 所：西成区長橋3丁目10の6
開店時間：水～金 17時～23時
土・日 13時～23時
定休日：月・火
電話番号：06-6568-9114



【谷口円】IKEAのスマート電球がとっても便利。間接照明を複数まとめて、リモコンでON/OFFできるのが最高です。テーブル状のスマート照明もあるので、ホテルみたいな空間も作れそう。



【田岡秀朋】大阪市の議員定数削減(81→70)が可決。削減効果額は2億1500万円だとか。武議員は同額を報酬削減(77万円→64万円)で担保し、多様な声が届く議会の存続を提案していた。身を切る改革の中身にもちゃんと注目！



【笹川勝正】夏の風物詩、職場のクーラー設定温度。暑がりな自分はこっそり温度を下げるが、大多数の意見に負けて戻される。こっそり下げる、戻されるの繰り返し。そろそろ、温度が違う風が出るクーラーの開発を望む今日この頃。



【沖田一志】7月からグーグルが提供するホームページのアクセス解析機能が大幅に変更される。集計画面も大幅に変わるので使い方が全く分からなくなった。誰か詳しい人を知りませんか？

些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。
いいこと思いつくかもしれないし。気づいたら西成に
たどり着いていた、或るオタクのおスマシ系コラム。

『Macintosh 徒然』

家を整理していたら昔のパソコン雑誌がたくさん出てきた。その8割方がアップル製PCの専門誌である『MacPower』だった。購読していた90年代後半は創業者のステイブジョブズがアップルに復帰した頃。当時までに販売されていたPCは、ウインドウズはもろりんアップルのPCでも色は白やベージュの事務的なデザインが基本だった。ジョブズが復帰して発売されたiMacの登場で時代が変わった。

初代のiMacが青緑色のボンダイブルー、次に登場したのがアイスブルーのPowerMacintosh G3だったと思う。次に発売されたiMacはカラフルな5色、CPUがG4に変わったPowerMacはグラフィイトやシルバーなどと、様々な色のMacが次々と発売された。この影響でウインドウズのPCだけでなく、ハードディスクやモデムなどの周辺機器までカラフルな製品が電気店に溢れていたのを思い出した。

私が子どもの頃、アップル製PCの製品名Macintoshは「Mac」と短く略して呼ばれていた。iMacが登場した頃から製品名そのものが

「Mac」へと変わっていた。基本ソフトであるOSは、90年代前半が確か「漢字talk7」、後半で「Mac OS 8.9」と進化、2000年代初期には「X (10)」が登場する。XはLinuxと同じUnixに起源をもっている、市販ソフト以外にもオープンソースから派生したツールが存在していた。ネットで見つけたツールのパッケージをコンパイルしてMacで使うといったことが普通に出来ていた。今となっては懐かしい時代だ。

OSがXに変わって大きく変化したのはFinderの存在だった。それまでのMacは完全なマルチタスクには対応していなかった、別のソフトに切り替えるときにはFinderから別のソフトを選ぶことでソフトを切り替えて使っていた。Xはマルチタスクなので起動したソフトはドックに並び、ドックからソフトを切り替えることができる。Unix由来でマルチタスクなXの環境では、従来のMacで使われていた多くのソフトが使えなくなった。その影響で「クラシック環境」と呼ばれていた古いOSが動くMacが貴重になった時期もあった。

ところで読者の多くが手にしている



iPhoneの基本ソフトiOSはMac OSをベースに開発されたものである。普段使っているiPhoneもXから派生したものという事を考えたら、Xに親近感がわかないだろうか？ また、別のスマホOSであるAndroidはLinuxをベースに開発されたと言われている。つまりiPhoneもAndroidも起源は同じUnixだった、ということになるのだ。

最後にお勧めのiPhoneアプリ「MacTracker」の紹介を。アップルが発売した歴代のPC、サーバ、PDA、周辺機器までを網羅する一覧アプリだ。私が所有する過去から現在までのアップル製品はアプリの「お気に入り」に登録済みである。情報が詳しいので、「クラシック環境が使えない最後のMacmini」「G4の2代目Probook」といったヒントだけで機種が簡単に特定できる。PCの歴代の起動音も収録されている優れものでもある。

ハンブレイ・T



親子遠足で南港「あそびマーレ」に行ってきました！ 今回のテーマは「保護者も子どもも先生もみんなで遊びを通して親睦を深めよう！」です。みんな汗だくになりながら思いっきり遊び、交流を楽しみました。



GOO Kids
International School



6 3くふうたま 昼 間



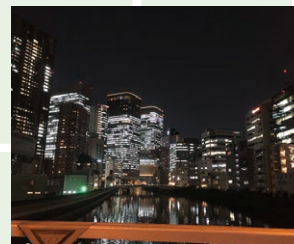
なにわ筋線の大工事



一日の終わりを運ぶタクシー



癒しへ誘うのれん



昼の延長戦がビルの夜景を彩る

夜の仕事

夜にしか出来ない仕事、夜に繁盛する仕事、お昼の仕事の延長戦。
今日もお疲れ様です。家族と過ごす時間も大切に。
(安田拓也)

ハナレバナレになった人とまち。
くらしの窓から紡ぐヒントを探してみる。



[安田拓也] 親という人達の馬力に感服する。自分以外の人格に一人前になるまでエネルギーを注ぐ。とても出来ないと思う。愛を以てしかできないことがある。言い続けることとか。



[福井龍磨] 実家の押入れから古い勲章が出てきた。「大正三四年従軍記章」という名で、日独戦争およびシベリア出兵の従軍者に授与されたものらしい。先祖の誰かに、異国で戦った人がいたようだ。



[西田吉志] 「西成区北西部まちづくり推進納涼盆踊り大会」は8月4日(金)に開催するそうです。去年は出店がなかったけど、たくさんの方が踊りに来てくれました。今年はどうだろう？

葉っぱの吐き

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。

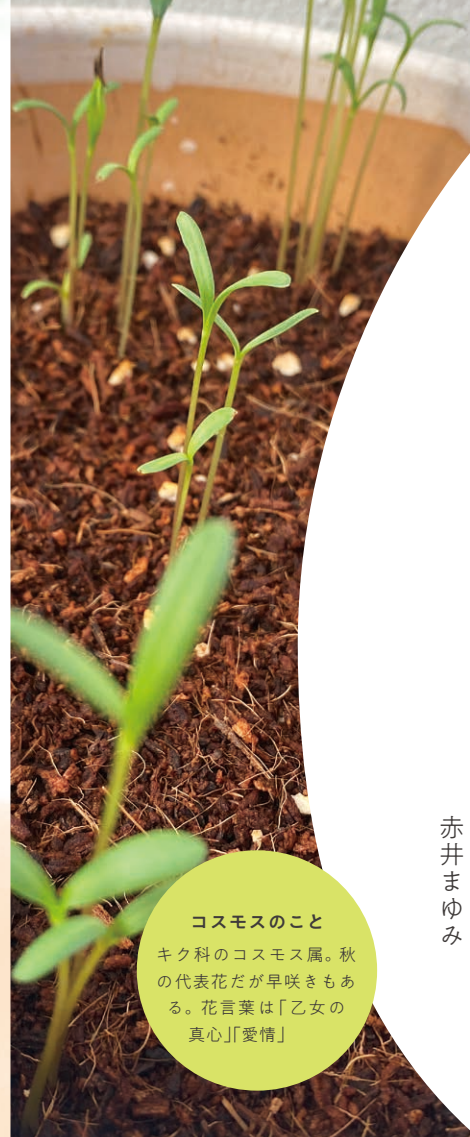


「コスモスの葉っぱ」の巻

おんぎゃあ おんぎゃあ 産声あげた。
どぎまぎ どぎまぎ まわり見た。
いっぱい いっぱい おなじ顔。
そっくり そっくり うり二つ。
きちんと きちんと お日さま浴びて
ぐっすり ぐっすり お昼寝しよう。
どどん どんどん 大きくなって
きちんと きちんと 花咲かそう。
赤白黄 ピンク オレンジ
どんな顔になれるかな
葉っぱの色はどんな色？
もちろん もちろん 緑色。

赤井まゆみ

コスモスのこと
キク科のコスモス属。秋の代表花だが早咲きもある。花言葉は「乙女の真心」「愛情」



い湯がげん

歓迎ユニオン御一行様

にしなり隣保館のご近所に何やら大きなお店が工場ができるといふ評判が立っている。ボクは、そのお店が工場にユニオン（最近では労働組合のことを横文字で言うことが多い）があったらどうなるかと妄想してみた。

先頃、茨城県で家電量販店の労働者による年間休日（111日）の取り決め（労働協約）が、県全域同業種のユニオン未加入の労働者にも適用されることを厚労大臣が承認したそうだ。労組法第18条が認められている「労働協約の地域拡張適用」だ。ご存知の通り、最低賃金は都道府県ごとに毎年改訂され、それに応じて賃金が上がっている（大阪はついに時給1023円）。でも、

それは賃金だけだ。

労働協約は賃金だけじゃなく有給休暇など労働条件全般に及ぶ。ユニオンは最低賃金に必須ではないが、労働協約には必須となる。そのユニオンの労働協約がユニオンのないお店にも適用され、さらに地域全般の労働条件の底上げになるなら、これは朗報。地域の「生活インフラ」になる。だから、近所に大きなお店や工場がやってくるならユニオンと御一行が良いと、拙稿の表題にしたわけだ。

ところで、ユニオンのないまま同業種（例えば介護職）の事業者が労働条件を揃えると、労使が対等でないで独占禁止法違反となる。しかし、ユニオンとの労働協約が

基礎になっていれば、憲法28条労働者の権利）があるので違反にはならない。やつぱり「歓迎ユニオン御一行」なのだ。
元々、ボクは、自治体の入札制度を活用して障がい者雇用を進める総合評価入札に取り組んできたから、「労働協約の地域拡張適用」にはほとんど同じ「臭い」を感じる。しかし、「労働協約の地域拡張適用」はハードルが高そうだ。そこで頭の体操、話題を変えて物事が広がって行く様を考えてみよう。

国会では、自民党が「差別禁止」より「理解増進」なんて難癖をつけているLGBT法も、制定されると西成でも法を普及させないといけない。ずっと昔の西成で長橋小学校の先生たちが障がい者問題を先駆けたように、LGBT法で地域をリードする企業が現れることを期待したい。「人権の労働協約」を締結し地域に拡張適用してくれたい。人権は一見難解だが、やってみたらこんな価値のあるものはそうない。せっかくのLGBT法、さっそく、臣永区長が旗振り

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



（寺本良弘）

2月2日付『中日新聞』のコラム「中日春秋」に西成差別が拡散されかねない記事が掲載された。中日新聞は愛知県をはじめとする中部地方の地方紙だが、多くの批判が新聞社に届いた。私も西成に住む当事者として抗議文を出した。抗議文には疑問点を列挙し回答を求めたが、到底納得できるものではなかった。6月6日に大阪まで来てもらった。

わかったことは、社員約3000人を抱える大きな会社であっても今回の記事をチェックする機能が編集部になかったこと。そして、そもそも西成差別という事情を知らなかったということ。ならば、たしかにチェックのしようがない。多くの社員の人権研修は大変だろうが、企業が果たすべき責任も大きいはずだ。私も民間企業との関係をしっかり築きつつ差別を無くすという社会的責任を全うしてもらおう活動をしていきたい。

してくれたら良いし、にしなり隣保館も準備を急ぎたい。

ちよつとウンチクを垂れるが、1926年頃、部落解放運動の先達松田喜一は大阪一般労働者組合の役員もやっていた。この組合は、西浜で皮革工、鶴橋で刷子工の、企業を超えた組合支部をつくり、職能別の最低賃金などを要求してストを打ったと記録にある。労働組合法もなかった戦前のこと、なかなかの知恵だと感心させられる。詳しく知りたいなら、『詳伝松田喜一』がにしなり隣保館にある。松田喜一が大阪一般労働者組合を連れてきたように、西成にユニオンやLGBT法がやってきたら、新しい刺激になるだろう。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



【若松司】立法事実が破綻している入管改正法案を可決するという暴挙を前にして、かすり傷にもならない揉み合いがなんだと言うのか。「暴力」と騒ぎ立てる稚拙さ、ガキの使いやあらへんで？



【山村裕太】ようやく夏が近づき、好きな季節がやってきました。夏は嫌いな人が多いですが、私は毎日がエブリデイで夏がいいです。虫だけが嫌ですが、

地域の縁を心でつなぐ

松向寺 心の時間

「朝、目覚めて目が見え、手が動くことがありがたい」と喜び、ベッドの上で合掌する老僧。脳梗塞で身体が不自由になっても幸せそうな姿に感動します。老僧は大切なものを失うと同時に真実を見つめる眼が深まり、大切なことに気づかれたのです。これを「覚り」というのでしょうか。

また、かつて結婚式で恩師から「永遠の愛を誓い合った二人でも、いつか必ず別れる時がきます。限りある時間を後悔のない時間に作り上げて下さい」という言葉を頂いたのを思い出しました。夫婦が共に過ごす日々は「偶然」に過ぎず、別れは「必然」である。こんな当たり前のことに気づいたからか、以前よりも連れ合いが愛おしく思えます。別れを見ることが少しは優しくなれたのでしょうか。老僧と恩師から飽くことのない幸せの追求を教えられます。限りある人生を精一杯に生き、たとえその過程で大切なものを失っても、残されたものに目を向けて幸せを探すことに余念がない。私もそんな人になりたいものです。

松向寺 通法

ココドコ

ここはどこ？
わたしはぐれ？
編集部が厳選した
「にしなり100景」
大公開！

雲ひとつない青い空にヤシの木…。夏の空気満載の1枚です。西成っぽくないですが、こんな風景が西成にあるんです。上に見えているものが大ヒントですね。ココがドコだか答えを知りたい人は、ゆ〜とあいの受付までお問い合わせください！

北津守3丁目の「北津守公園」でした！地元では【先月号の答え】「タイタニック公園」とも呼ばれているそう。ロープにぶらさがって滑走するターザンロープもあり。



2023年3月撮影

ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび7月号(vol.197)

発行日：2023年7月1日(創刊日：2007年1月1日)

発行：株式会社ナイス

住所：大阪市西成区長橋 3-6-33

電話：06-6563-1150

E-mail: info@nice.ne.jp

url: <https://www.nice.ne.jp/>

編集長：若松司

編集：沖田一志、笹川勝正、田岡秀朋、西田吉志、西原夏美、福井龍磨、安田拓也、山村裕太(あいうえお順)

イラスト：hidarimaki デザイン：谷口円

(株)ナイス
ホームページ

